

教科名		理科	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点	発行者名	東京書籍	大日本図書
A 内容 について	(1) 基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「これまでに学んだこと」のマークがあり、小学校・中学校の理科で学習した内容が掲載され、「学習内容の整理」のページでは、単元で学んだことの一覧が掲載されていて、復習を行いやすい構成となっている。 ・「学んだことをチェックしよう」や「例題・練習」が豊富であり、知識の定着が期待できる。また、重要語句は太字でルビが振られており、正しい理解を促すことができる。実験の操作説明やシミュレーションができる二次元コードが掲載されており、ICT機器を活用しながら深い理解ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各章の最初に「これまでに学習したこと」のページを設け、既習事項を図で掲載し、「例題」「演習」を活用するなど、基礎・基本の確実な定着を図る工夫がされている。 ・「基本操作」では二次元コードが掲載され、実験の技能を高める工夫があるとともに、「単元末問題」や「まとめ」が充実しており、キーワードや基礎的な知識の定着が期待できる。
	(2) 課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の始まりのページに「Before&After」があり、単元や章に関する問いかけによって、学習前と学習後に自身の学びの深まりを比較がしやすい。「問題発見→課題→仮説→構想→観察・実験→分析解釈→検討改善→ふり返り・活用」といった流れに沿って活動が設定されており、思考力の育成につながる。 ・「学びをいかして考えよう」には、既習事項を活用する場面や「活用」において、得た知識を使って考える発展的な課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「理科の学習の進め方」を活用することで課題解決のための思考・判断・表現の力を伸ばすことが期待できるとともに、各学年の重点目標を踏まえた探究活動を行うことができる。 ・各章末にある「探究活動」では、既習事項を基に、「問題発見→学習の課題→予想・計画→観察・実験→結果→考察→解説」といった流れの学習過程となっており思考力の育成につながるような工夫がされている。
	(3) 資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を広げるデジタルコンテンツが豊富で、巻末には活用方法が例示され、問題を解いたり、シミュレーションを使って、疑似体験できることが紹介されている。 ・「社会につながる科学」では働く人へのインタビューでキャリア教育と関連させることができるとともに「お仕事図鑑」では、理科に関する仕事について、最先端の技術と共に紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本を知る」では、「歴史と天文学」等、科学に関する内容や、日本の技術やものづくり、文化などに関わる物事を紹介するとともに「そのころの日本」では、話題になった年代と同じ頃に、日本で起こっていたことなどが紹介されている。 ・「Professional」では、防災センターの職員等学習内容に関係する職業について紹介されており、最先端の科学技術と学習内容を結び付けられるようになっている。
	(4) 持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちのSDGs」では身の回りの事柄を扱い、持続可能な社会について考えを深めることができる。 ・環境に関するコラム「私たちのSDGs」が3年間で10件掲載されており、発達段階に合わせて持続可能性に関する意識が高まるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各章にSDGsのロゴが割り当てられており、意識して取り組むことができる。 ・SDGsの達成に向けた取組や、自然環境の保全に関連してラムサール条約などの国際的な取組を扱っている。コラムである「Sciencepress」において、SDGsが扱われている箇所があり、持続可能性に関する意識が高まるようになっている。
B 使用上の 便宜 について	(1) 生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちなか科学」では、身近な疑問について投げかけられていて、学習した内容を日常生活や社会に広げて考える活動が充実している。 ・科学者の生い立ちや科学技術の発展の経緯を漫画化した「歴史にアクセス」、日本ジオパークを写真付きで紹介する「ジオパークへ行こう!」など読み物が豊富に用意されており、科学への興味・関心をもち、主体的に学習を進められるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「くらしの中の理科」では、学習内容が日常生活や社会でどのように活用されているかが紹介されている。 ・「Sciencepress」や「Professional」など、身近な事象についての記載や巻頭の「理科の学習の進め方」により、主体的に見通しをもって探究を進められるように工夫されている。
	(2) 多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びを生活や社会に広げよう」では、多摩市の実態に応じた探究活動が実施できる内容になっている。 ・東京都及び関東地方の資料が豊富に用いられている。また、「学びを生活や社会に広げよう」では、地域と関連付けた調べ学習や発表活動を設定することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の巻末の「生物を見に行こう」のページでは、多摩動物公園などの日本全国の動物園や水族館、植物園が掲載されている。 ・東京都及び関東地方の資料が豊富に用いられている。また、環境やエネルギーに対する取組を調べる活動があり、多摩市のESDと関連付けて考えることができる。

教科名		理科	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点	発行者名	学校図書	教育出版
A 内容 について	(1) 基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を発見し、その問題を科学的に探究するための「課題」に落とし込むことで、見通しがもって学習に取り組む工夫がされている。 ・単元の最初にCan-DO Listがあり、明確な目標をもって学習することで基礎・基本の定着を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に「自然の探究～なぜ理科を学ぶのか～」、理科の学習で大切なことや探究の進め方が掲載されている。 ・単元内の紙面にも同じ表現を使用し、ページ構成が統一され、自分で学習を進めることのできる工夫がされている。
	(2) 課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「習得のページ」があり、区切りごとに「課題」「まとめ」、その区切りで考えられる「見方・考え方」が示されている。 ・「探究のページ」では科学的探究に慣れるために、科学的探究の過程を段階ごとに示すことで、探究の進め方を理解しやすくする工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに探究の過程に沿って重点が置かれ、3年間を通じて科学的に探究する力を育成できる。 ・「話し合おう」の設定により、何を話し合うかが明確になり、話し合いの活発化や思考力を高めることにつながる工夫がされている。
	(3) 資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼすべてのページに二次元コードが掲載され、ICTを活用し、科学的な探究を行うために前提となる知識が確実に身に付くよう工夫されている。 ・天体のページには探査機「はやぶさ」やリュウグウなどの小惑星の写真が使われており、時代に合わせて最新のものを掲載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインを採用し、重要語句の漢字表記が赤字(朱色)、ふりがなは、黒字表記になっている。 ・AIやiPS細胞のコラムなど、最新の技術について紹介されており、時代に即応したものになっている。
	(4) 持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の最初のページで、SDGsのアイコンが掲載されていて、持続可能な社会の実現を目指すきっかけとなっている。また、コラムで様々な観点からSDGsを取り上げ、持続可能な社会の実現について考えられるよう工夫されている。 ・各章の扉のページに関連するSDGsのアイコンが載っており、SDGsと関連付けて考えることができるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭にSDGsの17の目標のアイコンを表示し、「まなびリンク」の中には「SDGsずかん」が掲載され、SDGsへの理解を深めることができる。 ・コラム「ハローサイエンス」には関連するSDGsのマークが載っており、必要に応じてSDGsと関連付けた学習ができるようになっている。
B 使用上の 便宜 について	(1) 生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「Can-Do List」によって、できるようになりたい目標を明確にし、学習の見通しをもって取り組むことができる工夫がなされている。 ・「理路整然」のページには探究の方法、考察の仕方など生徒が主体的に学習を進めるために必要な情報が多く掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「疑問を見つける」の場面では、生徒キャラクターのイラストを使って、身近な話題から疑問を見いだす場面が表現されている。 ・各学年の教科書の最初に探究の進め方のページが折り込まれており、具体的な学習の流れと共に探究の進め方を常に見ながら学習を進めることができる。
	(2) 多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の写真が多く掲載されていて、自然豊かな環境の多摩市に即している。 ・コラム「SDGsを意識して脱炭素社会へ」ではSDGsについて考えることができESDを推進している多摩市の実態に即している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物カード、原子のモデルカードなど、二次元コードを読み取ると生徒が自分で動かせるカードをWeb上で使うことができる。 ・ジオパークと世界自然遺産の写真とコラムがあり、SDGsと関連して考えることができ、ESDを推進する多摩市の実態に即している。

教科名		理科	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点	発行者名	新興出版社啓林館	
A 内容 について	(1) 基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「つながる学び」では、その章で学習する内容と関係する、既習事項を振り返ることができるようになっている。また「Review」では、用語の確認や、その章の学習の振り返りができるようになっていて、基礎・基本の確実な定着を図ることができる。 ・学習内容が分かりやすく配置され重要語句が太字になり、見やすくなっている、内容も充実している。 	
	(2) 課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ前にトライ!」「学んだあとにリトライ!」では、学習の前後で課題に対する考えを思考・表現する場面が設定されており、課題解決能力の育成を図ることができる。 ・「疑問→課題→仮説→計画→観察・実験→結果→考察→表現」の探究の過程が明確であり、「探究の振り返り」によって、何に注目しながら考察をするべきかが分かりやすい。また、学習の目的や内容を再認識する項目がある。 	
	(3) 資料が精選され、その内容が時代に即応したものにしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・コラムには最新技術の紹介もされており、時代に即応したものにしている。 ・章末に配置されている「ひろがる世界」には、最先端の技術が身近な場面と共に紹介されており、興味・関心を高める内容となっている。 	
	(4) 持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末には学年に応じた内容のSDGsの読み物がある。実際に日本で行われている取組を取り上げおり、身近な課題としてSDGsを考えることができる。 ・「持続可能な社会に向けて研究しよう」では、SDGsに関する調べ学習や、持続可能な社会に関する資料につながる二次元コードが配置されており、持続可能性に対する意識が高まるようになっている。 	
B 使用上の 便宜について	(1) 生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ前にトライ」と「学んだあとにリトライ」で自分の学びの深まりを確認することができる。 ・巻末の「サイエンス資料」には、学習内容に沿った、家庭でもできるような簡単な実験が複数掲載されており、生徒が主体的に学習に取り組めるようになっている。 	
	(2) 多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各ページの二次元コードの横には、二次元コードの内容が示されており分かりやすく、一人1台端末を活用できる場面が増える工夫がされている。 ・東京都及び関東地方の資料が豊富に用いられている。また、地域の自然災害の調査など、地域と関連付けた調べ学習や発表活動を設定され、多摩市でも行うことができる。 	